

北海道における農業農村整備の概況等について

令和7年2月25日
国土交通省 北海道開発局

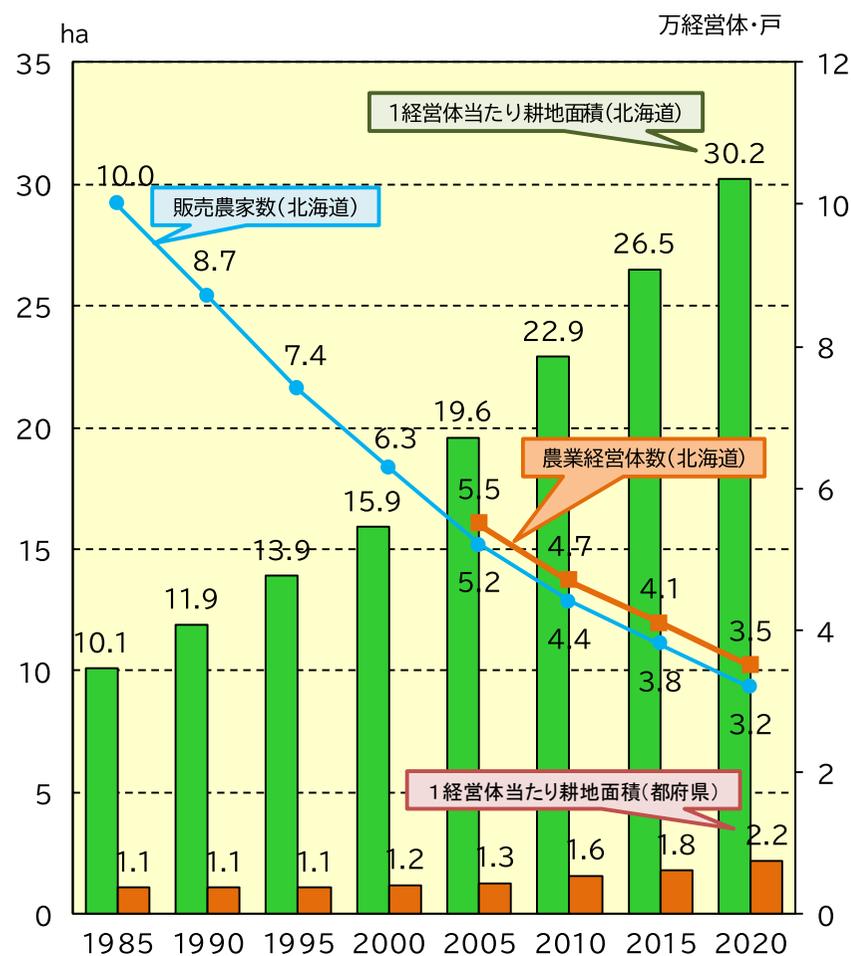
目次

- 1 北海道農業の現状・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 今後の北海道農業の方向性・・・・・・・・ 8
- 3 北海道の農業農村整備を取り巻く状況・・・・・・ 10

1 北海道農業の現状② ～大規模化が進み、大部分が主業農家

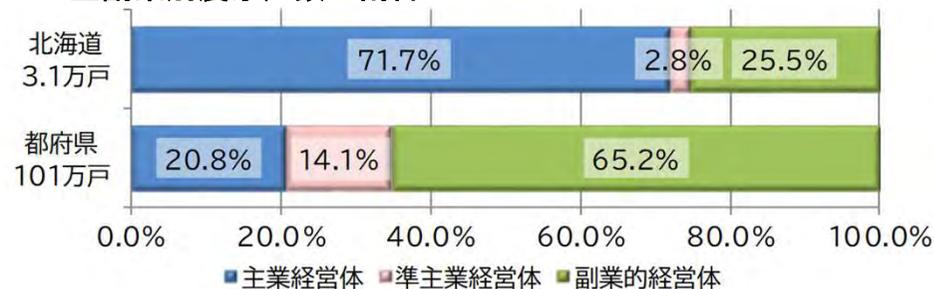
- 農家数の減少傾向が続いており、令和2年には3万2千戸（昭和60年の約3割）となっています。
- 離農跡地は、周辺の担い手が取得して経営規模を拡大してきており、平均経営規模は30.2haと昭和60年の約3倍となっています。主業農家が、戸数の7割、経営耕地の9割を占めています。
- 販売農家（個人経営体）の所得の8割以上が農業所得です（都府県は農外所得や年金等が7割を占める）。

■ 北海道の農業経営体数、1経営体当たり耕地面積の推移



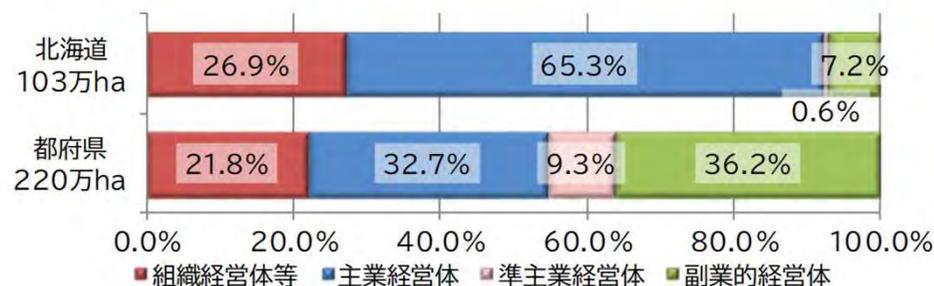
(資料)「農林業センサス」(農林水産省)
 (注) 2000年までは販売農家1戸当たりの経営耕地面積。

■ 主副業別農家戸数の割合

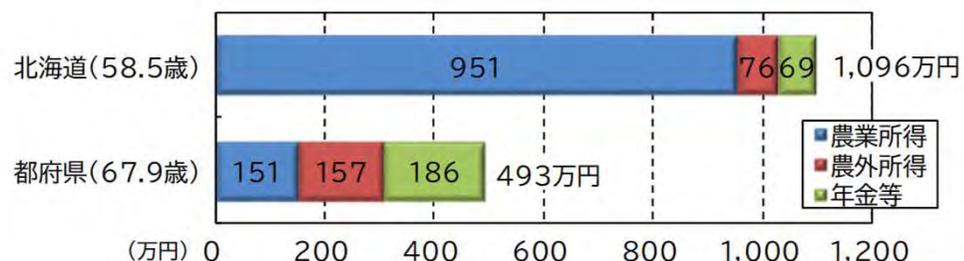


(資料) 2020年農林業センサス
 (注) 主業経営体とは、農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。

■ 経営形態別の経営耕地の利用割合



■ 農家所得の状況

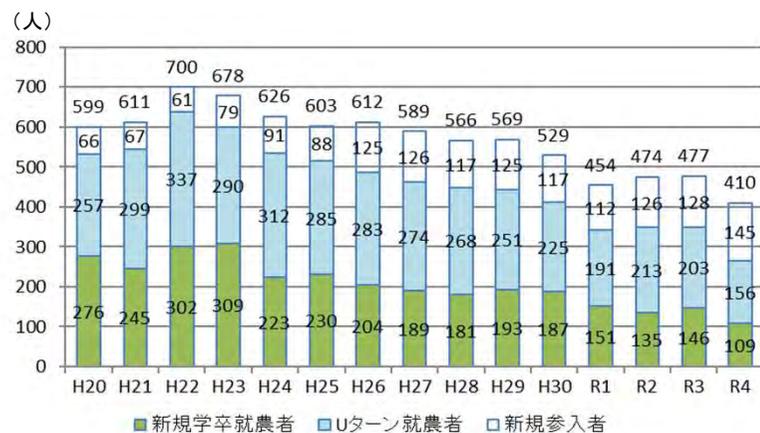


(資料) 平成30年農業経営統計調査(農林水産省)
 (注) ()内は経営主の平均年齢。

1 北海道農業の現状③ ～農業の担い手の動向

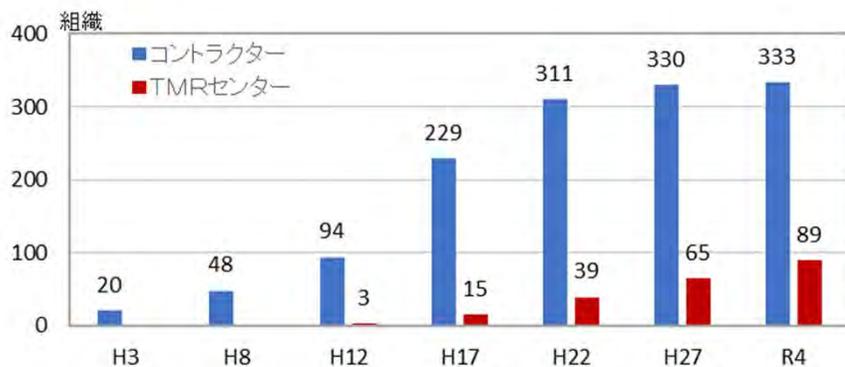
- 新規就農者数は、近年は概ね400～500人で推移しています。農業外からの新規参入者は増加傾向にあります。
- 農地所有適格法人を設立し、経営の効率化、多角化等を目指す経営体が増加しています。
- 農作業を請け負うコントラクター数は近年横ばいですが、酪農地帯で飼料生産から調製・供給までを行うTMRセンターは、増加傾向にあります。
- 作物別の農作業受託状況を見ると、「飼料」にかかる作業を行っている組織が最も多く、次いで「麦類」、「豆類」の順になっています。

■ 新規就農者数の推移



資料：北海道農政部調べ

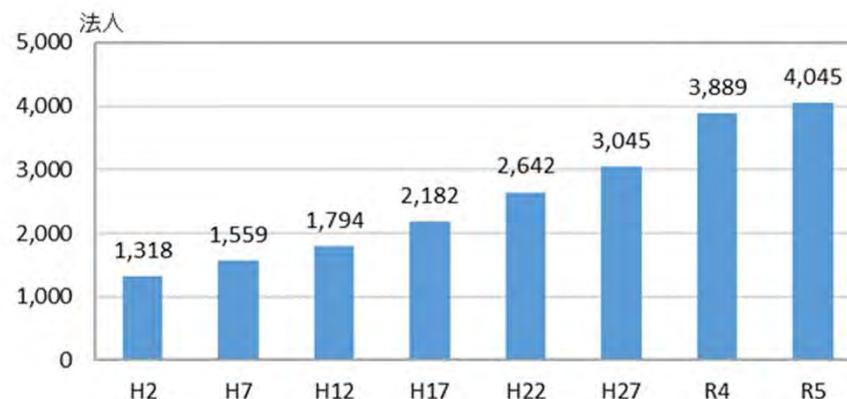
■ コントラクター・TMRセンター数の推移



資料：北海道農政部調べ、農林水産省「資料をめぐる情勢」

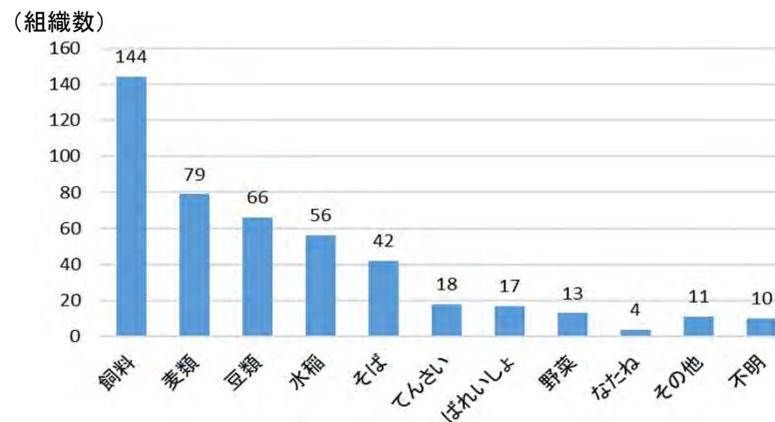
※TMR: 完全混合飼料(Total Mixed Rations)。乳牛が必要とする栄養素(粗飼料と濃厚飼料)がバランス良く配合されている飼料のこと。

■ 農地所有適格法人数の推移



資料：北海道農政部調べ

■ コントラクター組織における作物別の農作業受託状況



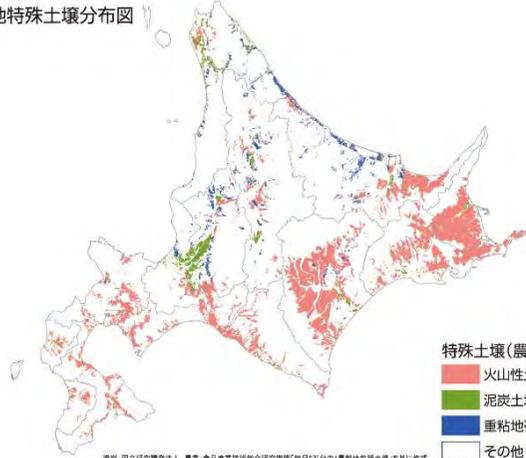
資料：北海道農政部調べ(R4コントラクター実態調査結果)

※耕種(飼料以外)の回答組織数は150(複数回答)

1 北海道農業の現状④ ～厳しい自然条件を克服し地域ごとに特色ある農業を展開

○ 北海道では、長年にわたる基盤整備の取組を通じて、寒冷な気候や特殊土壌など厳しい自然条件を克服し、地域ごとに特色ある農業が展開されています。

農用地特殊土壌分布図



道央地域 農業産出額 4,234億円

● 水稲を中心に野菜や肉牛等の生産、日高では軽種馬の生産が展開。



1個人経営体当たり規模 15.7ha (R2)

道南地域

農業産出額 981億円

● 施設園芸や果実等の集約的な農業と稲作が展開。



1個人経営体当たり規模 10.9ha (R2)

資料: 農林水産省大臣官房統計部「令和3年市町村別農業産出額(推計)」

宗谷・釧路・根室地域 農業産出額 2,503億円

● 草地形の大規模な酪農経営が展開。1個人経営体当たり規模 75.0ha (R2)



北海道の品目別農業産出額



十勝・オホーツク地域 農業産出額 5,388億円

● 麦類、ばれいしょ、豆類、てん菜を中心とした大規模な畑作農業と畑地型の大規模な酪農経営が展開。



1個人経営体当たり規模 35.6ha (R2)